

## 【二次評価全体講評】

- 中国地方は輸送における自家用車の分担率が全国平均よりも高く、ほぼ日常的にマイカーが使用されており、公共交通が使われていないという状況になっている。使わないからよく分からない、だから、乗らないというような、負のスパイラルをどこかで変えていく必要があり、利用促進の取組はこうした点からも重要。総合事業の枠組の中、さまざまな取組が行われ、今後は国庫補助がなくなっていく分野ではあるが、引き続き各地域では取組んでいただきたい。個々の協議会で行われている取組は多種多様であり、担当者の方の業務も大変多忙な中での取組に敬意を表したい。
- 市町村が合併していくと、ますます公共交通に関するビジョンを地域で共有して、取組を進めていくということが今後も引き続き重要になっていく。今後もいろいろな取組をしていく際には、計画への位置付け、場合によっては、計画の変更も含めて、地域でビジョンを共有して取組んでいただきたい。
- 交通というのは付帯事業であって何か用事をこなすために移動を伴うから利用されるものである。病院、商店、スーパー、福祉施設等のほか、今後は観光担当部署とも、より連携していただきたい。
- それぞれの協議会で調査資料に基づいて、現状であるとか、必要な事業を適切に選び出して実施されている点を評価したい。多くの協議会で成果を上げていることは、適切な事業を選び出して実施している証左。予算は仕分けられたが、理念や方向性は今後引き続き生かして、事業に取組んでいただきたい。
- 連携がさらに進んで、地域の活性化に展開、発展している事例が増えている。交通は派生事業という性格があり、地域全体をどのようにボトムアップしていくかという視点が必要。学校や商業施設、病院等との連携による地域づくりや町づくりにつなげている事業は、効果が出ている。  
協議会の事務局を担当されている自治体の担当者の方の一つのスキルアップにもつながっていることとも総合事業の評価ではないか。
- 交通を考えるときにマーケティングの視点を取り入れてほしい。誰をターゲットにして誰が使うのかということ意識したつくり方が求められる。マーケティングの視点を取り入れて、効果的に次のステップに進んでいただきたい。
- 公共交通が便利に、快適になっているという、公共交通のイメージアップのPRをし

ていくことが必要。いわば国民全体に対するモビリティーマネジメントといえるような情報発信を行っていただきたい。

- 計画が実現に至っていないということも一つの成果であり、こうした部分も含めて、積極的に情報交換して行って、全体的な公共交通政策を高めていただきたい。
- 中国地方の地域公共交通活性化・再生総合事業として、相対的に見て個性化が進んだ。地域に適したものを選別した上で実施されており、不満の解消から、満足度の高度化という方向に動いているといえる。
- 人の育成も含めた細かい対応や、あらゆる事業を組み合わせるパッケージとして行うといった総合化など、取組が高度化してきた。
- うまくいっている事例ではなく、うまくいっていない事例、あるいは迷うような事例がかなりある。こうしたあまりかっこよくはない、あるいは、オブラートに包んでおきたいようなところを評価に出しているところも、かなりある。これは事業全体としての前進。
- 地域と地域、自治体と自治体、局と自治体との間の連携だけでなく、買物と通学といった異目的間や、駅と自転車、航路と陸路、バスとタクシーのような異モード間の連携もかなり出てきており、全体的に連携が進んだ。
- 中国地方らしい地域標準、中国地方らしい特徴もかなり出てきている。各自治体、あるいは協議会が頑張っているものが、地域らしさを前面に出すような形になって、創意工夫が評価されているという意味で、地域らしさというか、地域の標準が高まっている。
- 活性化や再生の指標というのは何かというのをずっと議論してきたが、公共交通があれば、使っていなくても安心してできるというような声もあり、まだもう少し指標化についての議論が必要。
- いろいろなところで人材育成の取組が進んではいるが、専門家の育成も大衆教育もまだ十分に足りていない。
- 総合事業では、一番困っている問題とか、あるいは、どちらかというと解決しやすい問題から取組が進んできた。残っているのは、ややこしい問題とか、地域をまたぐよう

な問題が、おそらく残っているのではないか。

そこを、もう一つ踏ん張って継続していただきたい。おそらく短期の事業から長期の事業に移っていくことになるが、仕組み、制度の再構築にあたっては、持続性はもう一度担保できるようにお願いしたい。

間違いなく取組は高度化、前進している。この機運を失わないようにしていただきたい。